

2017 第3回定例会 花木則彰議員の討論

2017. 10. 12

花木則彰です。日本共産党仙台市議団を代表して討論を行います。

今議会は、郡和子市長の初めての定例会であり、新市長がこれまでの市政をどう引き継ぎ、どう変えていきたいと考えているのかその方向性が問われた議会でした。いじめ自死問題、発達障害も含めた障害児・者支援、35人以下学級への取り組み、市民の暮らしを大切にすまちづくり・地域づくり、市民協働をさらに強める取り組みなど、多くの分野にわたって市長の思いが表明されたことを歓迎するものです。

同時に、具体的な施策の推進という面では、今議会は、これから来年度の予算編成に取り組むという段階であり、ぜひ今後、具体化が進んだものから方針を発表して議会や市民の知恵も寄せて良いものを提案していただきたいと思います。

今議会のもう一つの特徴は、奥山前市政の昨年度の決算を審査するというものです。私たちは、奥山市政の元で、市民の願いから見て、改めなければならない点はどこなのかを明らかにする議論に努めました。そして、仙台市の財政には、市民の願いに応えることができる力があることを示してきました。決算についてのこれらの議論が、来年度予算の編成に生かされるよう願うものです。

その上で、決算に反対の立場を取らざるを得ない、2つの問題があります。

第一は、国民健康保険事業特別会計の決算です。毎年巨額の剰余金を出しています。結論から言えば、市民の保険料を高く取りすぎたわけです。「たまたま、そうってしまった」というのなら次の年の保険料算定の際にそのお金を参入して保険料を決めれば良いわけです。それも、やってこなかった。加入者一人当たり、約1万4千円も保険料を引き下げることが可能だったことが明らかになりました。このような、国保会計の運用は認めるわけにはいきません。

第97号議案 平成28年度仙台市一般会計・特別会計歳入歳出決算認定に関する件のうち、平成28年度仙台市国民健康保険特別事業会計歳入歳出決算に反対します。

第二は、決算年度の10月に行われた市民利用施設の使用料一斉値上げです。半年間の影響だけで市民利用施設の使用料の総額は約1億円増えています。

私たちは、昨年予算議会でも、奥山市長が値上げの根拠とした全ての点について、その誤りを具体的に示して反対しました。市民が大切に地域で紡いできた文化、スポーツ、社会教育の基盤となるのが市民利用施設です。210にも上る市民利用施設の使用料を値上げしようと、43本もの条例にかかわる改正が必要なのに、それを一括して提案し強行するという、大変乱暴なやり方でした。

市は、光熱水費と清掃等委託料負担分26%を使用料収入で賄うことが受益者負担の適正化だと言いましたが、実際には、施設ごとに水光熱費、清掃等委託費も使用料の割合も大きく異なっています。維持管理費は、利用実績が高くても低くても余り増減はしないのに、負担の公平性などと言って、使わなくてもかかる費用を利用者だけに負担させようというのは間違いです。結局、財政局の使用料収入全体の目標値にただけでした。

宮城県芸術協会をはじめ、文化団体、スポーツ団体、その他様々な市民団体・個人から一斉値上げに反対する陳情や請願が出されたことに加えて、パブリックコメントも213のうち8割が反対意見でした。市民に納得されていないことが明らかなのに、市民や利用者への丁寧な説明も行わないまま、「後で説明する」と言い抜けて、決めるという姿勢でした。

公の施設は、あらゆる市民に開放され、市民全員の貴重な財産です。市民とともに文化や

教育を発展させることを目指すべきです。

何の根拠もなく、値上げしたことに加えて、施設利用者の減少傾向があるのに、値上げによる影響が出ていないかの調査も財政局はこれからとのこと。市民利用施設の改修や備品整備など特段の充実策も行っていないのは大問題です。活発な市民活動の発展があつてこそ、市民協働の推進が計れます。

よって、同じく第97号議案中 平成28年度仙台市一般会計歳入歳出決算 歳入 第16款 使用料及び手数料について反対します。

市長選挙を通じて、市民の声や願いをしっかりと受け止め、市民と一緒に市政を進めていく、市民協働のさらなる発展が求められていることが示されました。市議会も、この方向を踏まえて役割を果たすことが求められていると感じています。

今議会では、例えば、就学援助制度の入学準備金・前倒し支給について、複数の会派が実施のための課題を乗り越えるべきだとの立場から議論し、当局の努力を促したことは、市民が願っている方向だと思います。ところが、その市民協働の取り組みに、分断と排除の論理を持ち込み、公党への誹謗中傷を行う議論もあつたことは市議会の見識が問われる重大な問題です。このような分断と排除の論理を乗り越えて、仙台においては多様な市民による協働、政治参画が大きく広がっています。市民協働がいつそう前進することの確信を表明して、討論とします。